

令和6年度AOIプロジェクト研究成果発表会

慶応義塾大学SFC研究所AOI・ラボにおける 令和6年度成果のご報告

2025年3月12日

慶應義塾大学 政策・メディア研究科 研究員 三木悠 慶應義塾大学 SFC研究所 上席所員 島津 秀雄 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 神成淳司



大規模評価を可能とする自動判別技術の開発 --担当: 三木、神成

●農産物の生理障害に対する画像解析技術について検討

農業分野におけるデータ活用に関する検討

--担当:島津、神成

●栽培暦を中心とした農作業PDCAサイクル化支援技術の開発 並びに、農作業データの分析支援手法の開発

未利用資源の効率的な活用手法の検討

--担当:信朝、神成

●既存の取り組みの有効性や市場性、採算性等に加え、SDGs や環境問題を含めた今後の社会情勢を見据えた持続的な活用 方策と課題の整理 本発表

大規模評価を可能とする自動判別技術の開発

慶應義塾大学 政策・メディア研究科 研究員 三木悠





- ●静岡県農林技術研究所(農技研)は、葉菜類にチップバーンが発生する
 メカニズムの解明、その早期発見と対策を研究課題としている
 ●AIによる画像解析で早期発見を行うための共同研究として遂行中
- 目標

4

●農技研がキャベツ葉の画像と特徴を示すラベルのデータセットを作成、
 慶応大学がチップバーンを判別するプログラムを試作し可能性を検証



チップバーンとは

チップバーンは、キャベツの葉先に現れる枯れや変色の症状。主に、カルシウム不足や水分ストレスが原因で発生

■ 農技研では、チップバーンを以下の5つのパターンに分類し、510枚の画像(正常:154枚、チップバーン発生の異常:356枚)を用意し、各画像に対して、ラベル付けを行った。



Googleの機械学習プラットフォーム「VertexAI」を利用しモデルを構築 今回の試行では、性能向上の為に、トレーニングデータを増量する必要が あり、そのための「データ拡張」に工夫を行った。



 データ拡張とは
 ランダムに回転、リサイズ、左右反転、色調補正等を行い、人為的にトレーニン グ画像を増量する



6

チップバーン種類の画像分類モデル

●チップバーンのキャベツ葉画像を入力すると、5種類のチップバーンのどれに当たるかを分類するモデル

約95%の精度で判定

さらなる精度向上への課題

●トレーニング画像の追加

●ラベルづけの工夫(同一画像に複数に分類できる現象を含む場合等)

指標	値
平均適合率	0.993
適合率	95.9%
再現率	95.9%
トレーニング画像数	404
検証画像数	52
テスト画像数	49

適合率(Precision): 正と判定した時に、実際にそれが真に正である割合 再現率(Recall):実際に正であるものの中から、どれだけ正と予測できたかを表す



AOI-PARC内の栽培実験装置と連動させ、装置で栽培する植物を、カ メラでモニタリングし、様々な局面での変化を自動抽出する仕組みに 発展させていく



8

農業分野におけるデータ活用に関する検討

慶応義塾大学 SFC研究所 上席所員 島津 秀雄

令和6年度 成果のサマリ

農作業の進捗管理スマホアプリTPOplanの開発(新規)

- ●従来開発を進めてきたTPOcastは「作業者目線」の農作業の精密記録ツール
 - ▶TPOCastは、AOI機構からAOItraceとして実用化
- ●TPOplanは「管理者目線」の農作業の進捗管理ツール
- ●2つは、それぞれ単独でも/連携でも利用可能

TPOplanの流れ

- ① 管理者:年間計画を栽培暦の形式で作成
- ② アプリ:栽培暦を読み込み、適切なタイミングに作業者へ作業指示を連絡
- ③ 作業者:作業終了時にアプリを使って報告
- ④ 管理者:作業履歴簿を見て、進捗状況を管理





AOItraceのサイト https://aoitrace.com/

課題

●教師:生徒(~数10名)への作業指示伝達や生徒各自の進捗管理が困難

●生徒:教師からの指示の記憶が困難、報告が面倒

TPOplanを使うと

●教師:年間作業計画を作成し、区画ごとに担当者(生徒)を割り当てるだけ

●生徒:TPOplanで自分への作業指示を見て、終了を報告するだけ



管理者/教師:栽培暦の作成+畑への割り当て

栽培暦をGoogleスプレッドシート(GSS)に記述 →GSS: Google社が提供するエクセルのような無料の表計算サービス ●シートに直接書いても、アプリを使っても、どちらでもよい 栽培暦を定義後に、実施する畑に割り当てていく



12 🕈 🗎 68%

作業者/生徒: 作業の確認 ⇒ 作業終了を入力



13 ©慶應義塾大学 SFC研究所 AOI・ラボ 2025

管理者/教師:進捗状況を確認(作業者別、畑別)



まとめ

農業組合、農業高校等で実証評価を計画中 まもなくストア公開予定です。トライアル参加に興味ある方は、AOI機 構にご連絡お願いいたします ●お問い合わせフォームはこちら: https://aoitrace.com/contact/

広報誌でもご紹介



農作業をプランニングする 管理者用のアプリをリリース。

慶應義塾大学SFC研究所AOI・ラボ 慶應義塾大学SFC研究所上席所員 島津秀雄

慶應義塾大学SFC研究所AOI・ラボは、アブ リ開発等を通じて農業分野のIT化を促進した り、AOI-PARCに研究室を持つ他の研究所と 連携して、より洗練された装置や仕組みづくり を行っています。2025年春には農作業の業 務効率化を支援する新しいアプリ「TPOplan (ティーピーオーブラン)」を発表します。TPO planは、「PIan(計画)」+「Do(実行)」+ 「Check(評価)」+「Action(改良)」というい わゆるPDCAフレームワークを導入し、営農指 導員や農業経営者、あるいは農業高校の先 生方が栽培暦を作成するとTPOに則して作 業指示を行い、作業者が日々記入する栽培 記録と照合できるスマートフォンアプリです。 離れた場所に複数の圃場を持ち、短期アル バイト等作業者が日々変わることもある農業 経営においても、栽培暦で計画を立て、作業 履歴をきちんと残し、なおかつ一元管理するこ とが容易にできるようになります。加えて肥料 や農薬が適正量になり、農作物の高品質化 も期待されます。

今後は更に、AOI-PARC内にある「次世代栽 培実験装置」と連携させて、管理と記録という このアプリのメイン機能を使って植物の成長 管理にもPDCAを展開する仕組みづくりにト ライしていきます。



TPOplanの画面例。

ご清聴ありがとうございました